

【流通部会】

循環と交流が 流通部会の役割です

Radix 流通部会

担当メンバー
齊藤公雄（副会長）、福江敬太郎（副会長・らでいっしゅぼーや流通管理部長）、横瀬恒人（副会長・同流通管理部長）

今年4月に発足した流通部会は、個別の商品や生産者、メーカーを対象とするのではなく、消費者から見た「らでいっしゅぼーや」を中心に流れていく「モノ」の循環や、「人」の交流などを柱として活動します。今期は「モノ」についてはらでいっしゅぼーやと共同で資源リサイクルの取組みに着手、「人」については「Radicleの会」との交流活動を進めていく予定です。

1. 人の交流を進めます

……部会運営

■**全体会・分科会の開催**：発足初年度の流通部会としては、下記に挙げる産地研修会、商品知識講座、会員の消費者訪問交流など「人」の交流について、らでいっしゅぼーや配送スタッフの方々の会である「Radicleの会」との協力関係の組み立てなどを模索していきます。また「モノ」の循環としてのリサイクルの取組みについては、らでいっしゅぼーやとの協力関係を組み立てていきます。今後部会参加のメンバーをRadicleの会・らでいっしゅぼーやに広げ、より開かれた部会運営を目指します。

2. 伝える大切さをバックアップ

……技術向上のための活動

■**産地研修会の開催**：産地研修会は、らでいっしゅぼーやの品物を届け、情報を会員さんや消費者に伝える大切な役割を務めているRadicleの会との共同企画です。Radix会員の生産現場に配送スタッフの皆さんを招き、昨年は夏、秋の2回にわたり開催されました。

■**商品知識講座への参加**：昨年らでいっしゅぼーや、配送スタッフ互助会との共同企画で始まった企画です。目的は上記産地研修会同様、生産者・メーカーのこだわりなどを配送スタッフの皆さんに伝えていくものです。Radixの会はこのバックアップしていきます。

■**会員の消費者交流**：らでいっしゅぼーやで開催されるイベントなどに協力し、一般の消費者やらでいっしゅぼーやの会員さんと、Radix会員の皆さんとの交流をサポートしていきます。

3. ゴミではなく「資源」

……研究調査等

■**リサイクラーの導入試験**：今らでいっしゅぼーやでは、会員さんの家庭で発生する生ゴミや、各センターで発生する野菜くずなどを、資源としてリサイクルする取組みを推進しています。会ではこれに協力し、必要なノウハウの提供や、資源化された食品残渣をRadix会員生産者の堆肥原料として活用する仕組み作りを進めます。4月には神奈川センターに導入第一号機の業務用リサイクラー（食品残渣を乾燥処理します）が設置され、保守や堆肥原料としての品質など、汎用性の確認を進めていきます。

循環型社会に向けた新たなスタート

生産者幹事副会長 齊藤 公雄
(茨城県茨川村・有機栽培あゆみの会代表)



環境汚染、経済の行き詰まり。21世紀はすべて蘇生に向かう循環型社会を作ることが経済の活性化を導く。私たちはRadixの会を通して、何を考え何を実践するべきか。

Radixの会もより充実。農産部会の小祝塾はわかりやすく大盛況、あとは皆さんで結果を作ることです。また、信末会長のは場では肥料設計と栄養価についての試験も行なわれ、施肥と作物との関連も分かることでしょう。今後は主任研究員の成田国寛氏の活躍に期待するところです。

循環型社会の構築に向けて、新たな企画もスタート。会では流通部会が設立され、らでいっしゅぼーやの会員さんの玄関まで、様々な情報を伝える、Radicleの会との交流もでき、より充実しそうな気配です。

会員さん宅の食物残渣を資源化する「エコキッチン倶楽部」も誕生、循環のシステムも始まりました。詳しくはお話サラダを読んでいただくとして、この取組みに会員さんが参加することによって、らでいっしゅぼーやの輪が大きくなり、Radixの会の皆様もより大きくなることを期待しています。

らでいっしゅぼーや、Radicleの会、そしてRadixの会

特別会員幹事副会長 福江 敬太郎
(らでいっしゅぼーや(株)流通管理部長)



これまで様々な席で言ってきたことですが、らでいっしゅぼーやの流通の基本は、特定かつ信頼関係のある生産者・メーカーの皆さんから納品された商品を、専属の代理店・配送スタッフが宅配により、これまた特定かつ信頼関係のある会員さんにお届けするというものです。

信頼関係が一番大事です。だから、らでいっしゅぼーや、Radixの会とRadicleの会それぞれの連携がとても重要となります。そこで、Radixの会・流通部会としては、この連携のつなぎを担おうと考えています。

また、食品ゴミの資源化として、資源リサイクルシステムの仕掛けがありますが、これの推進も流通部会で行なっていきます(この仕組みも産地から会員まで、一本の流通でつながっているから可能になったことです)。

実体をつくりながら、メンバーも増やしていきたいと思っておりますので、皆さんの積極的な関わりを期待しています。